

南ア 鋸岳～甲斐駒ヶ岳

2015年 1月10日～12日

メンバー ; L谷内、宮坂

昨年ラッセル地獄で敗退した鋸に再度のチャレンジで、思い返せば20年前は鋸を越えた所で悪天にて七丈滝尾根に逃げ、17年前と昨年は鋸のピストンに終わっており20年来の懸案であった駒本峰への縦走をなしとげることができました。茅野の自宅から眺められるままの釜無側から入山し黒戸尾根を下山するという計画でラッセルと強風に苦しめられましたが十分な達成感を味わうことができました。

#### [行動記録]

1/10 晴れ

AM5時茅野発。下山時用に竹宇神社に車デポ後AM6時釜無林道ゲート前駐車～6:25発。歩行開始後約3Km地点で除雪は終了しており雪道の林道に行くが正月のものと思われる古いトレース跡あり助かる。9:57林道終点。ここからは昨年しっかりわかんラッセルを強いられた所だがトレースに助けられ12時横岳峠着。この先三角点ピークまでの急登帯のラッセルはしんどく重荷がこたえる。14:10小平坦地2300m地点を見つけテンバとす。明日は日本海側に気圧の谷通過の予報でいつまでどの程度天候もってくるか気になる所である。

1/11 くもり～強風

AM3:30起床、5:30発。相変わらずの急登を忍の一字で登り切り6:40三角点ピーク。途中鋸主峰へ登るヘッドラの明かり4人組が遠望さる。角兵衛沢側から入ったパーティーであろう。登攀具を身につけ7時出発。7:40角兵衛のコル。ここから先は先行のトレースありありがたく使わせてもらい8時鋸第一高点に着くもすでに曇り出し眺めは得られず。ほぼ同時についた4人組に写真をとってもらい先に行かせてもらう。小ギャップの懸垂とその先の鎖場で先行3人組を待ち鹿窓手前の岩場で先に行かせてもらう。ちょっといやらしい細いリッジとその後の巻き気味の下降を処理すると鹿窓であるが下った後はなし。当初の予定どうり大ギャップへと向かう。中岳を越え左手に下降気味のトレースが20年前に使った懸垂点へ向かうものだが、先行2パーティーは右手の岩場を一段下った所から懸垂しているようであり直にコルに降り立てそうなので我々もそちらへと向かう。ロープが風であおられボロボロ落石に難儀しながらコルに降りる。下段の支点からで20m、我々の使った上段の支点からで25mぐらいの長さで50mロープを二本担ぎあげてきたことを正解としよう。コルからは落石の合間をかいくぐってガレルンゼをかけ下り安全地帯に入りホット一息。一緒

に休んだパーティーによると我々が本日の 3 番目らしく彼らは午後からの天気の崩れをみこして熊穴沢を下ると。先に南西尾根に取り付かせてもらい 10:30 第二高点。雪崩がやばそうな広々としたルンゼを下降し 10:52 中ノ川乗越。熊穴沢ノ頭への急登の途中で本日の先頭たる信大山岳会 4 人組の若者たちに追いつきラッセルのお礼をのべその後一緒にラッセルにはげむ。夏道は甲州側の樹林帯の中をトラバースしているが雪深いのでほぼ尾根上を忠実に進むがだんだんと風強まりしんどし。13 時三ツ頭。14:40 待望の六合石室着。信大組とともに小屋内にテント設営し一息つくが風ますます強まり外でのテント設営は大変だろうななどと思っていたら約 1 時間遅れで今朝シャッターを押してもらった 4 人組が到着し本日は 3 組の泊まりとなる。他のパーティーは全てエスケープしたようと。夜も遅くなると風も少しは弱まり未明には伊那谷の灯りも見えてくる。

1/12 曇り～快晴、強風!!

AM6:40 発。森林限界を抜けておりラッセルはないのであるが強風の中での岩場歩きである。心配していた鎖場も埋もれておらず氷化もなく順調に通過。上部に向かうに従い風は更に強まってくるが時折り晴れ間もでてきて天候の回復の兆しあり。9 時甲斐駒山頂。晴れ上がってくれ下降路たる黒戸尾根も全貌が見わたされかつトレース跡もあり一安心なのだが風強く二人で握手を交わしただけで写真を撮る余裕もなく即下降に移るが黄蓮谷側からの強風がすさまじく何度もよろけそうになり耐風姿勢を余儀なくされる。途中ガリー状の所で 2 ピッチの懸垂を行い八合目の迷い支尾根も確認の後樹林帯の安全地帯たる七丈小屋に 10:50 到着し一安心。振り返ると上部はまだ雪煙がなびいていた。この先長い長い下降をへて 15:05 竹宇神社駐車場帰着。釜無の車を回収後茅野に向かい山行を終了とした。